

令和 7 年度 社会福祉法人一宮市社会福祉協議会事業報告書

2025 年 3 月 10 日に理事会、同年 3 月 25 日に評議員会を開催し、令和 7 年度事業計画及び予算案が審議可決された。これに基づき、社会福祉事業の効率的運営を図り、組織活動を推進し地域福祉の向上に資するため、次の諸事業を行った。

< 社会福祉事業 >

1. 法人運営事業

(1) 役員数	14 名
理事	11 名
監事	3 名
(2) 評議員数	16 名
(3) 役員会等の開催	
① 理事会	開催回数 4 回
② 評議員会	開催回数 3 回
③ 監事会	開催回数 2 回
④ 評議員選任・解任委員会	開催回数 2 回

2. 企画・広報事業

(1) 第 20 回一宮市社会福祉大会を市と合同で開催した。

被表彰者 表彰状 44 名 感謝状 70 名

記念講演「注文をまちがえる料理店のこれまでとこれから」 小国士朗 氏

(2) 市民福祉基金等への寄付者を顕彰 顕彰者数 6 件

(3) ウェブサイト等による情報提供

分かりやすい情報提供並びに、SNS によりいち早く最新の情報を提供した（ボランティア情報等）（写真①）

(4) 一宮市と一体的に策定した地域福祉活動計画の周知を図った。

3. 地域福祉活動推進事業

会員会費等を財源として、社会福祉事業を実施し、支会組織の充実強化並びに地域福祉活動を推進した。

(1) 会費

① 一般	1,056,400 円	(2,113 口)
② 団体	49,068,980 円	(708 件)
③ 法人	330,500 円	(62 件)

(2)地域福祉活動推進事業

①支会活動費

- ・支会活動交付金 45,410,292 円（会費総額の 90%）
- ・支会活動助成金 44,232 円（見守りネットワーク事業）

②地域活動振興費

- ・支会活動交付金 5,045,588 円（会費総額の 10%）
- ・共同募金実績割 2,329,000 円（前年度共同募金実績額の 7%）

(3)支会長・民生児童委員会会長合同研修の開催

開催日：2月9日 参加者：43名

【講演】「間違いだらけの避難所運営」

講師：石川県七尾市 矢田郷地区まちづくり協議会 事務局長 関軒明宏氏

4. ボランティアセンター活動事業

地域住民の社会貢献に関する理解と関心を深め、ボランティア活動の育成援助と必要な連絡調整を密にし、社会福祉の増進を図るため、ボランティアセンター事業を推進した。

(1) ボランティア登録者数 327 グループ（7,458名） 個人 107名

(2) ボランティア相談

161件（高齢者 66件、児童 23件、障害者 25件、複合 15件、その他 32件）

(3) ボランティア活動保険料の一部を補助し、ボランティア活動を援助した。 5,156名

(4) 各種ボランティア養成講座を開催した。（写真②）

	講 座 名	開始日	回数	受講者	定員
1	音訳ボランティア講座	6月11日	10	8	20
2	点訳講習会	6月24日	10	8	15
3	手話奉仕員養成研修（基礎）	6月25日	25	10	20
4	手話奉仕員養成研修（入門）	7月1日	20	20	20
5	夏休みこども点字教室	7月24日	5	12	12
6	夏休みこども手話教室	7月24日	5	19	20
7	はじめてのボランティア講座	8月4日	4	9	15
8	こどもボランティアスクール	8月24日	4	19	20
9	防災ボランティアコーディネーター養成講座	9月27日 9月28日	2	16	30
10	高齢者疑似体験インストラクター養成講座	11月6日	1	8	12

11	傾聴ボランティア養成講座	2月26日	3	28	30
12	視覚障害者ガイドヘルプ講習会	3月3日	1	17	20

(5) 声の広報を発行した。(市広報 月1回、社協広報紙 年3回、保健所だより 年2回
議会だより 138 年4回、をカセットテープ及びCDに吹込み、視覚障害者に郵送した。)

延べ人数 カセット 67 名、CD 270 名

(6) 西尾張ブロックボランティアフェスティバル開催に参画した。

開催日：1月24日 会場：あま市美和文化会館（あま市）

参加者：約 280 名

(7) 青少年等ボランティア福祉体験学習

実施期間：7月22日～8月22日 参加校：23校 参加生徒延べ 286 名

受入施設：41 施設

(8) ボランティアセンター運営委員会

一宮市におけるボランティア活動推進に必要な取り組みについて協議をした。

開催日：7月11日、3月26日

(9) ボランティアつなげ隊 138

ボランティアセンター運営委員会で決定した、ボランティアセンター機能強化方針に基づき、ボランティア実践者により具体的な事業内容を検討した。

開催日：4月18日、6月20日、8月22日、9月26日、11月7日、1月30日

(10) ボランティア活動の啓発を図り、市民に参加を呼び掛けるため「いちのみやボランティアフェスティバル 2025」を開催した。

開催日：10月19日 会場：一宮スポーツ文化センター

来場者：3,200 名 出展団体：55 団体

(11) 災害ボランティアセンター運営研修等

①大規模災害発生時、職員が円滑に災害ボランティアセンター運営をできるよう内部研修を行った。(3月4日、5日、6日)

②大規模災害の発生に備え、一宮市内4つのライオンズクラブ（一宮ライオンズクラブ・一宮サウスライオンズクラブ・一宮中ライオンズクラブ・一宮東ライオンズクラブ）および一宮青年会議所と災害発生時における協力協定を締結しているが、発災した際により円滑で効果的な協力が図られるよう、一宮ライオンズクラブおよび一宮青年会議所と本会による合同意見交換を行った。

実施日：3月20日

5. 共同募金配分金事業

配分金事業として各種事業を実施した。

(1) 高齢者福祉活動事業

- ①各支会が実施する敬老の日行事の費用を一部助成した。

実施時期：9月・10月 対象者：満77歳以上 総対象者数：54,450名

- ②老人クラブ連合会事業に協力し助成した。

(2) 障害児・者福祉活動事業

- ①障害者団体・施設に助成した。

- ②市内におけるユニバーサルスポーツの環境を整えるため検討会を開催した。

1回（7月15日）

- ③本会主催の「いちのみやボランティアフェスティバル2025」において、パラスポーツ体験を実施した。（写真③）

- ④就学前の幼児と障害のある児童を対象にした「おもちゃ図書館」を開設し、遊びを通じて楽しいふれあいと、子育ての情報交換の場を提供した。

2か所 利用人数：延べ1,525名

（内訳）おもちゃの城 824名 なかよし 701名

- ⑤日常生活の便宜を図るため、身体に障害がある者、または疾病等で一時的に必要な者等に車椅子を貸出した。

車椅子の貸出し 664回（車いすドクターズにより年1回点検）

(3) 児童・青少年福祉活動事業

- ①児童生徒の福祉善行精神を高揚するため、小中学校の児童生徒の表彰を実施した。

62名

- ②福祉推進校に協力し助成した。

66校

- ③子ども会等各事業に助成した。

- ④福祉実践教室を開催した。

60校

- ⑤希望する学校と共同で、福祉教育を実施した。

3校

- ⑥こども盲導犬教室を開催した。 開催日：12月21日 参加者：58名

- ⑦児童養護施設・母子生活支援施設に入所している児童へ新年祝品を贈呈した。

4施設 108名

(4) 福祉育成・援助活動事業

- ①生活困窮者等に法外扶助給付を実施した。 2件

- ②行旅人に移送費を支給した。 3件

- ③生活保護世帯の保育園児に給食費の一部を支給した。 延べ人数 243名

- ④生活保護世帯の児童・生徒の修学旅行費の一部を支給した。

小学校 13名、中学校 11名

- ⑤福祉育成・援助活動事業等を行う団体に協力し助成した。 31団体

- ⑥社協広報紙「いちのみやの社会福祉」を年3回発行し、本会の活動及び実施事業全般に

についての啓発に努めた。 6・10・2月号 各 143,000 部（全戸配布）

⑦福祉のまちづくり運動を推進した。

市民の福祉への関心を高めるため福祉七夕笹を尾西庁舎玄関前へ飾った。

7月1日～7月25日

⑧ふれあい・いきいきサロン活動に援助、協力した。

- ・運営費補助 90 サロン
- ・立上げ時物品購入補助 1 サロン
- ・通いの場交流会及びふれあい・いきいきサロンリーダー交流会の開催（写真④）
開催日：7月1日 参加者：45名（市おでかけ広場と合同）
開催日：12月17日 参加者：58名（市おでかけ広場と合同）
開催日：2月25日 参加者：41名
- ・出張サロン 実績なし

(5) ボランティア活動育成事業

- ①地区ボランティア活動推進に助成した。 23 支会
- ②登録ボランティアグループの活動の振興を図るため、助成した。 43 団体

(6) 歳末たすけあい配分金事業

満70歳以上のひとり暮らし高齢者に民生児童委員の協力を得て、歳末訪問品を贈り見守り活動を行った。また、「いちみんキット（緊急医療情報キット）」を未配付の対象者に、緊急時の備えとして併せて配付した。

実施時期：12月 対象者：5,094名

6. 資金貸付事業

民生児童委員との連携を図り低所得者等の自立の援助に努めた。

(1) 県社会福祉協議会の生活福祉資金申請受付代行

- ①福祉費 申請受付 6 件
(6 件 743,000 円が貸付決定)
- ②教育支援資金 申請受付 6 件
(5 件 10,420,000 円が貸付決定)
- ③臨時特例つなぎ資金 申請受付 2 件
(2 件 40,000 円が貸付決定)
- ④不動産担保型生活資金 申請受付 1 件
(1 件 4,221,000 円が貸付決定)
- ⑤緊急小口資金 申請受付 71 件
(70 件 2,036,000 円が貸付決定)
- ⑥総合支援資金 実績なし

- (2)福祉金庫 貸付件数 2件 50,000円
- (3)くらし資金 実績なし(貸付制度終了)
- (4)県社会福祉協議会の緊急小口資金等の特例貸付の借受世帯を含む生活困窮者世帯フォローアップ支援を実施した。
- 相談件数：274件

7. 居宅介護等事業

訪問介護員が介護保険法及び障害者総合支援法に基づく、居宅介護サービスの提供及び市から受託した育児支援事業を実施した。

(1) 指定訪問介護事業 (介護保険事業)	サービス提供回数	延べ	20,344回
(2) 指定居宅介護事業 (障害福祉サービス事業)	サービス提供回数	延べ	15,361回
(3) 移動支援事業	サービス提供回数	延べ	2,025回
(4) 育児支援家庭訪問事業	サービス提供回数	延べ	210回

8. 居宅介護支援事業等

介護支援専門員が介護保険法に基づく、居宅介護支援及びあんしん介護予防事業における介護予防ケアマネジメントを行った。

また、市から受託した介護認定調査(新規)を行った。

(1) 要介護ケアプラン作成	延べ	1,541件
(2) 介護予防ケアプラン作成	延べ	820件
(3) 事業対象者ケアプラン作成	延べ	26件
(4) 介護認定調査(更新)	延べ	94件
(5) 介護認定調査(新規)	延べ	103件

9. 相談支援事業

相談支援専門員がサービス等利用計画の作成やモニタリングを実施した。

また、事業の廃止に向けて、利用者を他事業所へ移管した。

(1) 相談支援	延べ	4,480件
(2) 計画等作成	延べ	338件
(3) 移管件数		159件

10. 福祉サービス利用援助事業

県社協からの受託事業として自らの判断で適切な福祉サービスを受けることが困難な認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等が地域で自立した生活が送れるように福祉サービスの

利用援助、日常的金銭管理サービス、書類等の預かりサービスを行った。

利用者数 106 名（令和 7 年度末時点） うち新規契約者数 15 名 解約者数 3 名

11. 市受託事業

市からの受託で各事業を実施

(1) 重層的支援体制整備事業

地域住民やその世帯の複雑・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、「対象者の属性を問わない相談支援」「多様な社会参加に向けた支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施した。

① 新規ケース受付件数

多機関協働事業	5 件
参加支援事業	1 件
アウトリーチ等継続的支援事業	62 件

② 個別相談支援実績

多機関協働	508 件
アウトリーチ等継続的支援	521 件

③ 多機関協働に関する活動

途切れない、重層的な支援体制の構築のため、福祉関係者間の「連携」を深めることを目的として、講演会及び勉強会を実施。（写真⑤）

講演会 開催日：8 月 1 日 参加者：48 名

講師：同朋大学専任講師 加藤昭宏氏

勉強会 開催日：6 月 16 日 参加者：37 名

1 月 19 日 参加者：44 名

④ 参加支援に関する活動

- ・社会とのつながりをつくるために、誰でも気軽に立ち寄れるこころの居場所（フリースペース）の立ち上げ支援及び運営支援を行った。（写真⑥）

開催日：毎月第 2 火曜日 午後 1 時 30 分～3 時 30 分 会場：松鶴寺

毎月第 2 水曜日 午後 2 時～4 時 会場：妙君寺

- ・居場所に関するアイデア会議を開催し、関係機関が協働できる関係づくりを行った。

開催日：6 月 10 日 参加者：7 名

⑤ 普及啓発

支会長会議にて事業説明を行い、困りごとを抱えた方が地域で社会参加ができるよう理解を促し、相談先としての周知を図った。

(2) 生活支援体制整備事業

① 地域において多様な生活支援サービスを提供する仕組みを構築するため、第 1 層生活支

援コーディネーターとして各種団体の連携強化を図った。

②第2層生活支援コーディネーターと連携を図り、必要に応じて地域分析や必要な施策を検討し地域住民と情報を共有した。

③本事業を推進するため、丹陽町連区、今伊勢町連区、朝日連区を対象にした地域支え合い研修を実施し、普段のつながりの大切さを普及啓発した。（写真⑦）

開催日：6月19日（丹陽町） 受講者：68名

7月30日（今伊勢町） 受講者：22名

12月15日（朝日） 受講者：66名

④住民相互の助け合いによる会員制の生活支援サービス「ちょこボラサービス」を実施した。

利用会員 546名 協力会員 166名

サービス提供時間 延べ 965.5時間

⑤高齢者（65歳以上）を対象にした「気軽に学べるスマホ講座」を開催した。

開催日：7月18日（午前・午後） 受講者：延べ37名

⑥高齢者（65歳以上）を対象にした「初心者向け料理教室」を開催した。

開催日：（第1回）6月27日 受講者：12名

（第2回）7月4日 受講者：11名

（第3回）7月25日 受講者：11名

（3）子どもに対する学習・生活支援事業

市内4ヶ所において、高等学校等への進学を目指す中学生を対象に、学習・生活支援を行った。

開催日：原則、毎週土曜日 午前9時30分～11時（全48回）

利用者：77名（うち中学1年生28名、2年生24名、3年生25名）

※中学3年生25名のうち16名の高校進学を確認

延べ参加者数：1,874名

（会場別：一宮690名 尾西397名 木曽川430名 東357名）

（4）一宮市成年後見支援センター運営事業（写真⑧）

認知症、知的障害、精神障害等により判断能力が十分でない人に対して、成年後見制度の利用をはじめとする適切な権利擁護支援が行われるよう中核機関である「成年後見支援センター」を運営し、広報や相談支援等を行った。

①普及啓発

市民や関係機関等を対象に、中核機関の周知、制度説明など周知啓発・研修を行った。

実施回数：54回

②相談

窓口、電話、訪問による相談対応を行った。

相談件数：延べ 819 件（実人数：279 名）

③制度利用促進

後見人等受任候補者の調整や支援方法の検討が必要なケースについて、専門職に参画いただき、「成年後見制度利用支援検討会」を開催し、対応の検討を行った。

開催回数：5 回 検討ケース：9 件

12. 基金運営事業等

基金の適正な運用に努めた。その利息及び寄付金（市民福祉）をひとり暮らし高齢者とのふれあい事業等に活用した。

- ・各支会が実施するひとり暮らし高齢者ふれあいの集いの費用を一部助成した。

対象者：満 70 歳以上 総対象者数：5,093 名

<収益事業>

自動販売機設置事業

一宮市立市民病院等に飲料自動販売機を 6 台設置し、来所者の利便を図り、その収益の一部を本会の貴重な財源として充当した。

手数料収入 1,305,929 円

<文書公開の実施状況>

申出件数 0 件